

ガラ版
ハーメルンの
笛吹き

作
ガラ
林

登場人物

少年	・	風俗店に迷い込んだ少年
包帯女	・	右眼 左足 左手の薬指がない包帯で全身グルグル巻きの女
ハーメルン	・	元教員 今ここで笛を吹いている謎の女
ニューハーフ	・	体は男 心は女 体を女に手術している
男女	・	体は女 心は男 自分の性にうんざりしている
看守 / 女将	・	風俗店牢獄の女将 子供が産めない体
指親	・	風俗店牢獄のナンバーワン 体は男並みである
メルヘン	・	風俗店牢獄の生き字引 白粉で歳を隠している
ロバ	・	風俗店牢獄で働く女
犬	・	風俗店牢獄で働く女
猫	・	風俗店牢獄で働く女
鶏	・	風俗店牢獄で働く女
蜘蛛女	・	便所に仕掛けた蜘蛛の巣で獲物を待っている

※ この台本は 句読点 感嘆詞を使用せず

ある程度のスペースを使っているが 読

み手の区切る為のそれではない

舞台にはトイレットペーパーとその芯が撒き散らされている

少年

僕は高円寺に住んでいました 高円寺は杉並区にありJR中央線が走っています 高円寺は土日中央線が止まらない不便な街です ですから僕の移動はもっぱら自転車でした 高円寺を中野の方へ 新宿の方へ自転車を走らせていくと環状七号線にぶち当たります 環状七号線を北上していくと早稲田通りと交わります 自転車のペダルを東の方へ 太陽を背の方にして漕いでいきますと 中野通りが途中に見えてきます 中野通りの先には中野駅が見え 中野駅は高円寺と比べ物にならないほど活気が溢れています 僕はその活気から逃げるように自転車を漕ぎ続けるのです 何から逃げたのか また何から逃げる必要があったのか 定かでないまま僕はまた大きな隔たりにぶち当たったのです 山手通り 新宿に間近 巨大なネオン街 でもその前にもう一つ駅があったことは知りませんでした

女の叫び声

片目で片足で左手の薬指のない全身包帯グルグル巻きの女が逃げてくる

包帯女

・・・ハハハッハッハ・・・

少年

ハァーハァハァ待つってください

包帯女

待ちません

少年

何故待つてくださいらないのですか

包帯女

なぜってあなたのその手には光る凶器が

少年

見てたよね 君見てたよね

包帯女

見てません 私見てません

少年

じゃあなぜ逃げるんです僕からそれは見ていたからだ

包帯女

見えません この眼じゃ

少年

(ゴクリ)

包帯女

今私の顔を見て後悔しましたね

少年

後悔

包帯女

私が振り返らなければなんの躊躇もなく背中からズブリとその凶器で刺せたのにと

少年

思う訳がない

包帯女

じゃあ何で今後ろへたじろいだの

少年

僕の年頃は後ろへたじろぐものなのです

包帯女

私を哀れんでいるんですね

少年

いいや

包帯女

いやそうだ 私がお店に立つと最初は暗がりの中だから私のこの顔この体に気づかないでも私の目が 指が 足がこうだと分かると決まって同じ顔をする

少年

同じ顔

包帯女

この女は片端だと

少年

(ゴクリ)

包帯女

そのゴクリと唾を飲んだのは私のこの異形に恐怖したの それとも好物かもと

包帯女

少年

好物

包帯女

私を犯したいと思っているでしょ

少年

そんなこと

包帯女

変態

少年

変態

包帯女

変態でしょ 今殺そうと思っていた女を片端と分かった瞬間抱きたいと思ったからだよ

少年

何故そんなことが言える

包帯女

私を選ぶ客はみんな同じ顔をするからだよ

少年

・・・

包帯女

ねえ一ついい なんて殺したのあなた

少年

やっぱり見てたんだな その黒く燃える目で

包帯女

私も殺すというの その右手に握ったもので

少年

僕はこの右手のものを握り直す あなた一晩おいくらですか (万札)

包帯女

ハハハハハ

熱い抱擁と絡み

少年

おはようございます

包帯女

君は昨日私を殺そうとした少年

少年

少年だなんて 一晩超えてひと皮剥けて 今や一人前です

包帯女

その一人前の君が何故まだここに

少年

はい 優しい遊女のお姉様の手ほどきで見事男になった私ですが 事終わりスツキ

包帯女

リ吐き出し帰る支度に明け暮れる私の背中を叩いた番頭さん

少年

番頭さん どこにいるというのそんな人

包帯女

お金を払えというのです あなたに渡したお金とは別にうちは風呂代がかかるんだ

少年

と

包帯女

お風呂代請求されたから番頭さん

少年

はい しかし私昨晚貴方様に出しきってしまい

包帯女

どうもそれは

少年

後ろから 黒いサングラスしてるのに背中中は華やかな色を放つ彫り物をしたどっ

包帯女

ちなんだとギャップのある人が出てきて僕の指を数えるので

包帯女

ので

少年

ここで働かせてくださいと 風呂屋の三助になりやすと

包帯女

三助ってあなたここどんな所だと思っているの ここは男が背中流すところじゃないのよ 女が背中を胸で洗うの

少年

はい分かっています ですので私も三倍助平になろうと

包帯女

三助ってそういう意味じゃないから 何で金持ってないあなたに三倍気持ちよくな

少年

ってもらわなければならないの

少年

若気の至りです

包帯女 若気の至りで人を殺したの
 少年 姉さんそれうちに聞かんといてちよ
 包帯女 あなたが姉さん言うたらそりゃ姉ヅラして聞き出すよ コラ喋らんかい
 少年 ヒー私を追い込まないで
 包帯女 勝手に崖っぷちに追い込まれたのはそっちでしょ
 少年 そうです その崖っぷちに立つ恋人達だったんです
 包帯女 恋人達
 少年 僕がこの手にかけてきたのは恋人なんです 愛の逃避行
 包帯女 駆け落ち心中
 少年 はい心に決めたよお前さん 手に手を取ってバンザイクリフ あーれー
 包帯女 戦争の爪痕はまだ深いね ちよっと待ってあなた落ちてないじゃないの・・・それ
 少年 に手にナイフ持ってたよ
 包帯女 あーっ ナイフは岩牡蠣を
 包帯女 岩牡蠣 えらくワイルドだったのね じゃあ私は岩牡蠣ほじるとこ見ちゃったの
 少年 それ人殺しと見間違わないでしょ
 包帯女 その白いぷっくりとした腹にナイフを押し当て その涙色した真珠を取り出して
 包帯女 言ったのです
 少年 ちよっと待ってそれじゃ人殺しというより密猟者じゃない真珠の 人の作った真
 包帯女 珠横取りして ハーーン あんたさては女を横取りしては捨ててきたな心中だけ
 少年 奪って
 包帯女 違うんですよ 寄ってきたのはあっちです 人様のものとはつゆ知らず そして相
 包帯女 手は言うんです 先で待ってるわと ですから一応僕も追いかける準備 用心
 包帯女 がけ 心積もり よーいどん カレンダーに丸と行く気ではいるんですけど ズル
 少年 ズルとと
 包帯女 素麺食べたんかい
 少年 はい 伸びる前に
 包帯女 素麺は伸びる前に食べれるのに何で先に逝った女はすぐに追えなかったのさ
 少年 だってそうしてるうちに新しい彼女ができるもので
 包帯女 それ何自慢
 少年 そして決まって言われるんです 私先に行ってるからねー彼女たちはどこに行っ
 包帯女 たのでしょ
 少年 あのよー
 包帯女 あの世とは天国ですか地獄ですか
 少年 違うそういう意味じゃない
 包帯女 その時決まってあるんです
 少年 何が
 包帯女 笛が街中に 悪魔が来たりて笛を吹く
 少年 何 金田一シリーズ
 包帯女 違います グリム童話です
 少年 笛が

少年

人さらいの笛がハーメルンの笛が ほら聞こえてきた

ハーメルン

小学校の頃音楽の授業で笛を吹きました 笛は息づかいが難しいので少しでも空気を多く入れるとピーと音は裏返り 少しでも足りないとスーッと無音は遠くエーゲ海に消えていく カフカー 海辺のカフカー 海辺のー 君よ聞こえていますか この息足りぬ僕の息づかいはスーッと君の所に届いていますか 音楽の授業中ピーピーと吹き鳴らし笛の演奏の邪魔をして私はクラスでいじめられました 私は笛を吹くのをやめました でも皆さん人生捨てたものじゃありません 音楽の田中先生は私が笛を吹いていないのに気付いて小学校夕暮れの放課後 音楽室で秘密の特訓をしてくれるのです 先生は縦笛の持ち方から啞え方 指の動かし方 息の使い方 方を懇切丁寧に教えてくれました 吉田ー 今日はいつもと違った笛を使つて練習だー はい先生 先生この笛は 吉田ー 考えるな 教えた通りにやってみろ はい先生 そうですか 吉田ー そうだいいぞ はい先生 でも先生この笛からは音が出ません 吉田ー 深く考えるなー 先生はお前に何を教えた 縦笛の吹き方です 私は田中先生の熱意に優しさに応える為笛を 先生に教え込まれたテクニクで吹きまくった それでも音は出ない ズルズルジュブジュブという外れの音がして 先生はそれでも いいぞ それでいいというばかり 先生はいいぞ吉田であるぞあと少しで出るぞ 音が と叫ぶとピーという裏返り半音シャープ上げてピューという音を出して 合格だと私の白く汚れた頬を撫でた 田中先生はその次の日から学校に来なくなつた 後で聞いたら何かの犯罪を犯したらしい 先生ー 私ー まだ横笛の吹き方教わつてないよー 先生はなんで縦笛の吹き方しか教えてくれなかったのー 私はいじめられなくなつた 田中先生に教えてもらった笛吹きテクニクをクラスの女子に広めたのだ 女子たちは笛吹きが上手くなり クラスの男子はその音色にうっとりする 私は中学へ上がると勢いそのまま町の笛を手当たり次第に

少年

もうやめて聞きたくない

ハーメルン

私の半生の話つまらない

少年

半生だからつまされる

ハーメルン

反省します だから吹かせて笛を

少年

結構です

ハーメルン

雨天決行

少年

決行しないでください

ハーメルン

ウブなのね 新入りの三助は タダは今だけなのに

少年

タダ

ハーメルン

只 ロハアロハー オエー

少年

・・・

ハーメルン

どうしたの

少年

タダより高いものではありません それにただ の後はつきものです 条件という

ハーメルン

憑き物がつきまとう
ただし

ハーメルン

それ何自慢

少年

お国自慢です

ハーメルン

そのお国女の奥に自慢味わってやろうじゃないもちろんタダで

ニューハーフ

・・・

男女

・・・

看守

入れ 今日からここがお前の場所だ

男女

乱暴はやめてくれ

看守

何を

男女

・・・

ニューハーフ

やめた方がいい ここじゃ抵抗は無駄だ

男女

あんたは

ニューハーフ

行ってしまつて後悔した男

男女

男

行き過ぎた 新人類さあの時は行けると思つたんだ 僕達はニュータイプだったからね 君達だつてそうだから

男女

君達

ニューハーフ

失礼 革命さあーこの世は革命に満ちている 満ちているが故に何一つ成し得られない

男女

・・・

ニューハーフ

そう五月蠅がらないでくれよ 僕達はこれから当分の間ここで一緒に閉じ込められなければならぬんだから

男女

閉じ込められる

ニューハーフ

ここは革命を求めた者が投獄される牢屋 監獄

男女

俺が何をしたつていうんだい

ニューハーフ

何もしてない奴がこの牢獄にウハハ嘘はいけない 物取り 殺し それとも・・・

そんなに五月蠅がらないでよ・・・僕は・・・黙らないよそれでもこれに慣れる方が早い
まさかこれが牢獄の拷問なんじゃないか
ウマイ そうだ君の言う通りだ 謎がようやく解けた 前に入っていた奴はあ

ニューハーフ

前の前は僕が口を開いた瞬間首を吊つた それでも僕は喋つた あのー知ってる首を吊つて人間意識を失うにはそう時間はかからないんだ でもその後心肺停止から人間が本当に死ぬには十分近くかかるんだ その十分の間僕はしゃべり続けた いや死んだ後も 腐り落ち溶けてなくなって骨になって骨が風化してサラサラと風に 乗って消え去つても

男女

ニューハーフ

ここから出してくれー俺を・・・何でも喋る 組織の秘密も 組織のアジトの場所も

男女

何革命家の気になつてんの 本当にそんなものあるのか
お前何者だ 組織の回し者か 俺が喋らないように見張つて居るのか

ニューハーフ

私はあるたを食べるよ 蜘蛛女のキス

ニューハーフ・蜘蛛女

ヴァレンティン 君は若い 何故テロリストのような世界を闇に覆う活動をして自分の春を売る

男女

・・・うわ蜘蛛だーこのこの

ニューハーフ

レニ・ラメゾンよ知ってる

男女

知らんね そんな古い女優

ニューハーフ

フフフ・・・ 僕はレニ・ラメゾンになりたかった だから体を全部女に改造した でも後で気づいた・・・ 僕の心は男なんだ

男女

地獄だ

ニューハーフ

そう地獄だよ 行けると思ったんだ 最初は行って後悔したこの体 ねえヴァレンティン

男女

俺をそんな名で呼ぶな

ニューハーフ

じゃあ名前教えてよ

男女

嫌だ

ニューハーフ

じゃあヴァレンティン

男女

ふざけてんのか

ニューハーフ

じゃあせめて私をモリーナって呼んで

男女

モリーナ・・・

看守

お前ら掃除の時間だよ

ブレーメンの音楽隊 少年 男女 ニューハーフ達掃除を始める

男女

何この現実

ニューハーフ

しーっ

看守

お前達私語は許さないよ

男女

俺はこの牢獄に閉じ込められたんじゃないの

看守

そうだよ 風呂屋の三助ーおい新入り

少年

はい

看守

このさらにド新人に教えてやりな

少年

はい ねえー君ここはお姉さんが体を 春を売り 健やかな風ふく殿方の楽園

看守

風俗店

男女

牢獄ーだあ

少年

風俗店

男女

はい 姉さん

男女

姉さん 俺が身体を

ブレーメン

体を売るー 春を 青を 切り売り切り売り

男女

あたしゃなんて所に押し込まれたんだ

看守

何言ってるんだ自分で面接来といてさあ皆 私を女将さんとお呼び

一同

はい 女将さん

看守 我々風俗店牢獄は中野駅を北口に出まして早稲田通りを新宿方面に三十分歩きま
して 山手通りとぶつかった

ロバ 女将さん 中野駅北口から歩いて三十分

女将 バカ 中野駅から早稲田通りに抜ける約五分を忘れるんじゃないよ

犬 三十五分もかけて歩くなんて もっと最寄りはないのですか あまりに便が不便だ
中野駅から中央線乗ったら次は

猫 新宿

女将 新宿からは歩くと五十分

鶏 じゃあ中野駅が最寄りでもう少し近くにないですかい

女将 いいんだよ 風俗店だよ そんな駅近くに住ってごらん 人の目についちまう お客
様が恥ずかしい思いしちまう それにうちは訳アリが働いてる

ロバ 訳あり

女将 山手通りと早稲田通りの交わるところだよ 山手から見下ろすその先は歓楽 街

犬 歌舞伎町

女将 そう風俗で働くなら新宿歌舞伎町でやればいい その方がより多く稼げる

猫 でもなぜ行かない

女将 山手から見下ろす歓楽街のネオンの先に目が耐えられない 闇に輝く光ゴケ強い

鶏 光は耐えられないのさ この店は山手通りを天の川として 中野という織姫と新宿
という彦星を遮った風俗店 牢獄 決して天の川を越えて彦星に出会えぬ運命 歌
舞伎町で働けない中落ちが落ちてきた落武者の都

鶏 でも女将 もし山手通りが天の川なら一年に一度七夕の日 川は激しい流れを止め
対岸に渡る道が現れます まるで上りと下りを猛烈に行き交うトラックを止めた赤
信号のように

親指 行きたい奴には行かせる ねー

ブレーメン No. 1

親指 この店のNo. 1 親指姫とは私のことさ こいつかい 面接に来といて客を一
人 も取らない女は

男女 . . .

ニューハーフ ヴァレンティン 親指姉さんに挨拶しな ヴァレンティン

親指 ヴァレンティン 男みたいな名前だな

男女 . . . 失礼します

ニューハーフ あの . . . 悪い奴じゃないので コラー ヴァレンティン

女将 さあーお前 そろそろ店が開くよ 支度しなー

メルヘン 姉さん大変ですネー あんな跳ねっ返り

親指 メルヘン 姉さん敬語やめてください 年が上なのは姉さんの方です

メルヘン 私メルヘン十六才 テヘ

親指 テヘッって歳じゃないでしょ 今笑った瞬間固めたファンデーションが目元からパ
ラバラ落ちましたよ

メルヘン 三助ー

少年 はい

メルヘン 私は何歳に見える

少年 三十四歳

メルヘン おいもう一度言ってみろよ

少年 姉さん いや妹さん 目元からファンデーションがパラパラと

メルヘン メルヘンの国にファンデーションという言葉はありません これは美しい蝶の鱗粉
前に出した分我の強い蛾の毒粉

少年 何よーイテテ 腰が

親指 姉さん無理しないで

メルヘン 膝の軟骨が擦り減ったから何だっというのコンドロイチン 記憶力が落ちたからっ
て何だっというのDHA 糞詰まりだから何だっというの蒟蒻畑 生きる活力が湧
かないからっというの卵黄ニンニク 世の中の滋養と強壯は我のためにあ
りー

親指 姉さん喋り口

メルヘン 私メルヘン 永遠の十六才

親指 永遠って言った時点でもう十六歳じゃないでしょ

メルヘン メルヘンワタスの十六歳の頃はハイカラさんが通るあの桜道を自転車で風を切る
忍少尉ー 私スあんたがスベリアから帰ってグるの 待ってるべー

親指 姉さん ハイカラさんが通るって青春時代大正時代 いつから永遠の十六才やって
るの

メルヘン デモクラシーが何だっというの

親指 完全にそう

メルヘン その日暮らしだっままならない貧困な時代 いつも私達は腹ペコよ

少年 これじゃあメルヘンではなく気が変だ

メルヘン メルヘン気が変 私はどこが純愛を貫いた私の気が変というの ではお前らの方が
よっぽどだな この劣性遺伝子共めー

親指 もうメルヘンを通り越してアンデルセンの魔女だ

メルヘン 私メルヘン十六才 ハハハ

少年 ゴホゴホこれはファンデーションじゃないおしろいだ 蝶の鱗粉じゃなく蛾の毒粉
だ

親指 君・・・私は美しい

少年 それは・・・

親指 声を濁しただけでそれが何を導こうとしているか分かるのが人間
美しいです

親指 声にしたその表情が真意では何を語ろうとしているのか分かるのが人間

少年 ちょっと姉さん 僕に何を求めるといいますか そんなに僕を追い込んで

親指 私はなんでこんな顔してこの店のNo. 1なんだろうねー

少年 そりゃ姉さんのテクニク

親指 テクはお手の物さもちろん でもそんなもん女なら誰だっって持ち合わせてる サツ

少年 カードで大切なのはテクニックだけじゃない フィジカルを持ち合わせてなんぼ
フィジカル

親指 私の名前は親指姫

少年 親指の姫というにはフィジカルが強すぎるような親指姫というからにはこれぐら
いで収めないよ

親指 私の親指はそんなもんじゃない

少年 えっ 姉さんの親指は

親指 私の親指はここには無い

少年 いやあります

親指 私の親指はココなのさ

少年 うわー あんた男

親指 これが私が親指姫たる所以

少年 まさか まさか姉さんあんたのフィジカルって

親指 親指程のクリトリスさー いやー勃起時は親指じゃ効かない

少年 へーへー

親指 それをマゾ男四つん這いにして後から穴を突いてやるのさ

少年 へーへー もう僕には理解できない世界だ

親指 理解しなくていい 実存する現象を認識さえすれば

少年 認識しました

親指 実存主義はお嫌いですか

少年 急に知的にならないで

親指 サッカーで大切なのはテクニック フィジカルだけじゃない ボールの先を読むイ
ンテリジェンスも持ち合わせなければならぬ 実存するためには本質を持ち合わ
せなければならぬ 例えば私たち女は子供を産む しかしその本質とは生殖機能
を持たなければならぬということ 諸君

少年 え

親指 嵐は終わった にもかかわらず我々はあたかも嵐が起ころうとしている矢先のよ
うに不安である

少年 詩人 ポールヴァレリー

親指 神は死んだ ねえ少年 あなたの实存は何

少年 サルトル

少年 No. 1 お客様です

親指 はいよー あなたの穴を突いてやろうか

少年 ハッ

親指 ハハハ

包帯女 ・・・・私は自由の虜 この一階の窓から羨ましくもない外を眺めている まだ私が高

少年 い塔に閉じ込められた不自由の虜なら私の人生はどれだけ輝かしいだろう

包帯女 クレオパトラ

あなたまで私を馬鹿にするの あなたその初めてになってあげた私をそんなピラ

少年 ミッドの奥の 包帯ぐるぐる巻きのミイラの様に呼ぶの
じゃあなんと呼べば

包帯女

少年 いやそれ余計ミイラに近いですけどー 何ですかそれ

包帯女 これ これは遠い世界を見渡すための望遠鏡 ガリレオの望遠鏡よ（トイレット

ペーパーの筒）

少年 これがあの 地球は青かったと言った

包帯女 それは宇宙飛行士の言葉 ガリレオが言ったのはそれでも地球は回っている

少年 回っている

包帯女 何故ガリレオはこの地球が丸いと分かったのかしら 何故地球は太陽の周りを回る

と分かったのかしら

少年 そう勉強したからでしょ 教科書で

包帯女 あんたバカ

少年 はい

包帯女 おー ならいいや ガリレオはそれを教科書に書いた最初の人

少年 えー ガリレオって文部省の人

包帯女 あんたバカ

少年 はい

包帯女 おー ならいいや 見てみるこのガリレオの望遠鏡

少年 はい いやー それにしてもさすがガリレオの望遠鏡 趣が違うというか古めかしさ

が違ふというか まず匂いがカビ臭い

少年 どう それで見る世界は遠くまで見渡す限りの桃源郷

包帯女 はい でもどちらかというとやや近い景色がこんな筒なものだから視野も狭く薄ぼ

んやりと

包帯女 古い望遠鏡はそうなのよ ガリレオは土星の輪を見た時星にヒゲが生えていると言

った

少年 なるほど しかしこのガリレオさん 見れば見るほどトイレットペーパーの芯に見

えなくもなく

少年 そうよそれはトイレットペーパーの芯

包帯女 いやあんたの方がバカだろ どの世界にトイレットペーパーの芯を望遠鏡に見立

てるやつがいる

包帯女 ここにいる

少年 どおりで臭いがカビ臭いと思った この匂いは万年アンモニアの占めるあのトイレ

の中で染み付いたものだったんですね・・・おえー

包帯女 どう 遠くまで見えたでしょう

少年 どこが ただの筒ですよ レンズも無く三メートル先の現実がそのまま筒抜けで視

包帯女 野が狭い分ただの不便です まだ何も無い方がスッキリとした景色を望める

少年 スッキリとした景色を見ないため そんなものがこの世にあっても良くない 見て

包帯女 よ私のこの体あなたはゴクリと唾を飲んで好物かもしれないけれど 目は潰

れ 指は不揃いで足はもげている この現実を誰が受け入れてくれる ならまだその

ガリレオの いや誰もがカビ臭いと きな臭いトイレットペーパーの芯で薄暗い像を怪しく掠めてくれた方がどれだけ私は幸せか

少年

その芯でどこを見るところですか 外の華やかな世界から目を背け ここに密かに忍ぶと言うのですか

包帯女

私にその勇気があるとしても・・・私がまだ高い塔に閉じ込められた悲運なお姫様なら出ていく理由をそのせいにして 私はどれだけ夢想の中で幸せに漂っていらるかでも私の現実はこの体で這い蹲れば鍵もかかっていない どうぞご自由にのドアを開けて外に暴力という自由を手に行きましょ 自由を求めると思う

少年

包帯女

引かれていくには指が足りない

少年

包帯女

それなら肩を貸します

少年

包帯女

肩を借りても片足が足りない

少年

包帯女

おぶります

少年

包帯女

疲れるわそのうち

少年

包帯女

疲れたら抱っこします

包帯女

おんぶに抱っこ そんな至れり尽せりは最初だけ それで捨てられる女の身になって

少年

包帯女

捨てません 背負うのが嫌で空を飛びたいというなら背負い投げもします

少年

包帯女

それはいいわ・・・

少年

包帯女

行きましょ

少年

包帯女

そうやって外に女を連れ出して私を殺すんじゃないでしょうね

少年

包帯女

え

少年

包帯女

何も

少年

包帯女

行きましょ

少年

包帯女

目もこれよ

少年

包帯女

行く先の明かり 転ばぬ先の杖になります

少年

包帯女

じゃあ

少年

包帯女

はい

少年

包帯女

ダメよ

少年

包帯女

行きましょ 笛吹き

少年

包帯女

あなたに言ってない そっちの片端に言っっている

少年

包帯女

嫉妬しているの

少年

包帯女

寄っかかれるの そのバランスで

少年

包帯女

彼なら受け止めてくれると言っただけ

少年

包帯女

はい

少年は包帯女を背負いきれない

ハーメルン

ハハハハ・・・それがあなたたちの現実

包帯女
受け止めてくれると言ったじゃない
すみません すみません
包帯女
触らないで

ハーマメルン
何故連れ出そうとしたの

少年
この悪魔 あんたが笛を吹くところくなことが起こらない

ハーマメルン
そもそも笛はそういうもの ピー 行ったぞそっちだー泥棒を追いかける笛 自殺者よ 電車の警笛に恐れおののけ ヴォーホー 開戦の合図が ホラ貝の音

少年
お前の吹く笛は

ハーマメルン
それを聞くの 吹こうか

少年
やめてくれ

ハーマメルン
犬にも聞こえぬ私の笛の音があんたには届いてる

少年
もうその笛で僕を呼ぶのはやめてください

ハーマメルン
聞こえているのはあなただけ ただの幻聴

少年
お前は何者だ

ハーマメルン
その遠眼鏡で私を見て答えが出るならそうすればいい さあ聞こう 私は何に見え

ている それにお前は私を知っている その誰とも知らぬ面影に当てる私をその人

に見立てている さあ教えてくれ あなたは私を誰かさんにしようと言うのだろう

少年
・・・

ハーマメルン
あの女の手は引いた 何故この手は引かない

少年
引けと言うなら

ハーマメルン
引け

少年
・・・

ハーマメルン
引いたのは手ではなく一線

少年
手を引けとは言わなかったの

ハーマメルン
じゃあ手を引け

少年
はい

ハーマメルン
同じ手を引くでもそれだと私を諦めたことになる

少年
あなたが手を引けというもので その手とは言わなかった

ハーマメルン
この手をじゃあ引きなさい

少年
はい・・・

ハーマメルン
どうしても私と手を繋ぐ気はないみたいだね そんなむごいことがよくできる

少年
返してください少年を

ハーマメルン
私は誰に似ているね

少年
あなたは誰にも似ていない その人そのものだ 先生

ハーマメルン
とうとう呼んだねその名で私を

少年
憧れの先生の後を さながらストーカーのように追いかけて いつも乗るはずのバ

スに乗らず 中野駅を超えて北へ 早稲田通りの方へ それを東に歌舞伎町の方へ

追いかけて行く 途中よぎった もし先生が 憧れのあの先生が歌舞伎町で 風俗

で働いていたらどうしよう

ハーメルン
少年 遊びに行ったんだと思わなかったの
遊びに行くなら中央線で一本だ
でもあなたは安堵した 私は山手通りを越えなかった
越えなかったが一線越えて ここで同じく体売っている
少年 ハーメルン 私は身体は売っていない 笛を吹いている 皆は私の笛の音を買っていく
少年 ハーメルン それがズブズブジュブジュブという笛あるまじき音でもですか
少年 ハーメルン あるまじきもアルマジロも丸めてポイさ 口に含んだ白濁をティッシュに吐き出し
て
少年 先生帰ってきてください 思い出のカフカに
少年 ハーメルン 私が帰る・・・笑わせる じゃあ君よ 君こそここで何してる 私の生徒と言った君
少年 ハーメルン はここで何をしている
少年 それは・・・言えませんが
少年 ハーメルン 訳ありにする気か 本当にそれは訳ありか
少年 ハーメルン 何を言っているんです あなたがここに引き込んでおいて
少年 ハーメルン 引き込んだ
少年 そうでしょう だっていつの世も少年をさらうのはハーメルンの笛

(笛の音)

ブレーメン
少年 ・・・
少年 またそうやってあなたは少年を引き込んだ
少年 ロバ グエグエ
少年 犬 ワンワン
少年 猫 ニャーニャー
少年 鶏 コケコッコ
少年 ロバ 大丈夫ですか
少年 犬 なぜ僕を心配する
少年 猫 だって今僕達が追い払わなかったら
少年 鶏 あんたはハーメルンの笛吹きに いやホラ吹きに連れて行かれるとこだったんだ
少年 ロバ よ
少年 猫 ホラ吹き
少年 鶏 ホラ吹き 嘘つきさ・・・あの女ここが訳ありだっことをいいことにホラを吹く
少年 ロバ のさ
少年 犬 私の客の中には芸能人がいる
少年 猫 実家は金持ちのお嬢様
少年 鶏 婚約者はモナコ公国の若きプリンス
少年 ロバ 元々はロンドンフィルハーモニー交響楽団の第一フルート
少年 犬 第一バイオリンって聞いたことあるけど 第一フルートってあるか
少年 猫 無いよ 嘘さ どうせホラだホラ
少年 犬 調べなくても分かる ホラ吹きだ

鶏 だから新入り気をつけな ホラ吹きのホラ貝の音はいつも
少年 いつも
ロバ 戦の始まりだからな
犬 きつとロクでもないことが起きる
猫 ロクでないなら一体なんだ
鶏 ロクデナシさ

ニューハーフ レニ・ラメゾンはそこでこう言った このろくでなし・・・これがこの映画のラスト

男女・・・どうした続けてくれ 他の映画の話を知りたい

ニューハーフ 僕の話を知りたい

男女 おかしいか

ニューハーフ おかしくはないけどなんで

男女 楽しいからさ

ニューハーフ 楽しい僕の話が

男女 信用しないのかい ならレニ・ラメゾンの話が面白いならどう

ニューハーフ まあそれなら・・・ねえヴァレンティン なぜあなたはここに入ったの

男女 それはあいつの差し金か

ニューハーフ あいつ

男女 看守だ

ニューハーフ あー 女将さんね いやこれは僕の興味本位

男女 俺は捕まったんだ 反政府革命運動の首謀者だからね

ニューハーフ 反政府革命運動の首謀者・・・ハハハ

男女 何がおかしい

ニューハーフ だってまるでそれじゃ

男女 蜘蛛女のキスとでも言いたいのかい

ニューハーフ あなた知ってて

男女 モリーナ せっかくの牢獄だ楽しもうじゃないか

ニューハーフ モリーナ 今なんて

男女 モリーナ モリーナだろ レニ・ラメゾンの好きな

ニューハーフ ヴァレンティン あーこのまま時が止まればいい

男女 ニューハーフの唇を奪う

男女 このキスは最後のキスカい・・・

ニューハーフ なぜ僕を受け入れてくれたの だって僕は体は女だけど心はそっくりそのままよ

男女 俺だって君と同じだ 女の体に心は男の子だから・・・ 今のは友情の証

ニューハーフ ちよつと待って 蜘蛛女のキスのモリーナとヴァレンティンのキスが友情だって言
いたいのか

男女 だってそうだろう ヴァレンティンは監獄の外の仲間と連絡を取るためにモリーナの
釈放を利用した キスはその報酬 友情の証だ

ニューハーフ そんなはずがない二人はお互いを必要とした 牢獄という場所で寂しさも孤独も飢えも共有して

男女 そう牢獄だ 男二人が閉じ込められた 一人はホモで一人はノンケ 極限状態だ 他に選択肢はない 男と男だからそうなった もしそこに女が一人追加されたら結果は変わってた ヴァレンティンはモリーナではなくその女を選んださ

ニューハーフ 出ていってここから あなたの顔は二度と見たくない
それは無理だ ここは牢獄 押し込められたのは同じなんだから

ニューハーフ じゃあ私が出ていくことから

男女 どこに 言ったさ ここは牢獄だって 牢獄に押し込められるやつなんざ皆訳あり だってね・・・その体だけ女に手術して 心は男のまま 誰が雇ってくれる 誰が認めてくれる 誰が愛してくれる

ニューハーフ 少なくとも貴方ではない

男女 君も俺と同じこの牢獄を一生の住処にしなければならんだよ 残念だね・・・ 心を手術出来る所があれば君は正常になれたのに

ニューハーフ

男女 おしゃべりモリーナがだんまりかい じゃあ今度はこちらが口を開こうかモリー

ナ・・・君は身体は立派な女だ 客も喜んで君を選ぶ でも君はどんな気持ちなんだい 四十過ぎたビール腹のハゲ散らかした脂症に抱かれてる 心は男の君はどんな顔しているんだ どんな声を出すんだアハハハ 私には理解できない だって君の心は男なんだろ・・・男が男を抱く いやいやこれは問題だぞ 客だってまさか抱いてる女の体の心が同じ男だなんて思いもしないだろう よもしそれを知ったらどうなるかなーみんな口に指を突っ込んで戻すのかなー それともここはそんな訳ありばかりを抱きに来るのだからそれがたまらんのか

ニューハーフ なんとでもそれが僕の仕事

男女 仕事に誇りを持つのは素晴らしい

ニューハーフ じゃあ君は何故ここに来た

男女 俺は望んでここに来たわけじゃない 牢獄 まさにここに押し込まれたのさ

ニューハーフ 売られたのか

男女 世の中悪い奴はいる ただそれだけでも俺は君とは違う 自分の心は売らない たとえこの牢獄で餓死しようとも

女将 入りな

蜘蛛女 ・・・・はい

女将 お前達 今日から新入りだよ ここがお前の部屋だ分かったね

蜘蛛女 はい よろしくお願ひしま・・・す・・・あの何か私の顔についていますか

ニューハーフ レニ・ラメゾン

男女 蜘蛛女 俺達の運命をどう狂わせたい

蜘蛛女 はい

メルヘン 失礼するよ お前かい新入りの蜘蛛は

蜘蛛女 蜘蛛 私が
メルヘン 蜘蛛だろう 蜘蛛 夜な夜な街頭に出て男を探す女郎
蜘蛛女 女郎 蜘蛛だろう
メルヘン
蜘蛛女
メルヘン
その外の立ちんぼ専門が何で今更こんな訳ありに流れてきた
蜘蛛女 それは・・・
メルヘン 言えないのか
蜘蛛女 言えないのか
メルヘン いえ
蜘蛛女 いえ 家の話かい
蜘蛛女 いえ その家ではないのですが
メルヘン 言え ぬの方ではない イエ スの方か
蜘蛛女 はい
メルヘン じゃあなんだ
蜘蛛女 話すと長くなるのですがいいですか
メルヘン 私にその時間は無いよ 見てこの目尻
蜘蛛女 あら深刻
メルヘン 人の目尻を深く刻むんじゃない かいつまんで伸ばせ
蜘蛛女 話をかいつまんで伸ばす 矛盾です
メルヘン 違う 話のかいつまむだけ 目尻をつまんで伸ばしてー
蜘蛛女 はいはい
メルヘン あんた若いねまだ
蜘蛛女 分かりますか
メルヘン 分かるよ 指先の潤いを私の目尻が吸っている
蜘蛛女 若さを吸わないで
メルヘン 人を吸血鬼みたいに言うなー
蜘蛛女 いや血を吸われるだけならまだしも若さは
メルヘン 若さじゃない潤いだ
蜘蛛女 同じです それ女の宝です
メルヘン 女の宝は子宝だろ
蜘蛛女 子宝
メルヘン ハーイン 分かったよあんたの訳あり 私のこの鼻をくすぐる粉 粉ミルク 乳の話
だね
蜘蛛女 はいそうです その概ねで合っています チチが出ないので
メルヘン その胸から子供が育つか
蜘蛛女 いえ 刑務所から
メルヘン 刑務所から
蜘蛛女 父が・・・あの子の父が私の子のあの父が入ったまま出てこないのです
メルヘン それで身を売ってる 女手一つで子供を食べさせるために 辛いのか
蜘蛛女 蜘蛛はその卵を産むために交配後のオスを食べ その卵から子供が生まれると自分

の体を子供に食べさせます 食べさせる為に男を食い体を投げ売るので 辛くありません

メルヘン

あんたは立派な女郎だ あんた何歳だ

蜘蛛女

私は二十二歳独身です

メルヘン

嘘つけお前は私の 永遠の十六才の逆に行く女

蜘蛛女

私十六歳 既婚者の元立ちんぼです

メルヘン

子供の為に

蜘蛛女

はい

メルヘン

でもいいのか 自分の体をお子供に最初に食べさせるんだ もう子供はお前を母親だ

蜘蛛女

とは思わない ハハーン 飯だなど思うよ

メルヘン

その冷酷さを叩き込んでいるつもりです

蜘蛛女

子供が母親を食い殺すことを教える 今後は恐ろしい世の中じゃないか

メルヘン

それでもそれが女の宿命というのなら

蜘蛛女

全ての女がそれを望むとでも 私に押し付けなしてくれ

メルヘン

そうやって女が子供から逃げるから日本の出生率は下がり高齢出産になるのです

蜘蛛女

急に話が大きくなりすぎやしません

メルヘン

それぐらい大風呂敷広げさせてくださいここまで出番を待ったのですから 蜘蛛は

蜘蛛女

網に餌がかかるまでじーっと待ってなければならぬです

メルヘン

じゃあ今私その網にかかった餌ぐるぐる巻きは嫌だよ せめてサナギ

蜘蛛女

その年までなんで貴方はかたくなに少女から女になることを拒んでいるのです

メルヘン

ちよっと待って立場を変えないで

蜘蛛女

あなたは永遠の十六才で私は未来の二十二歳 このメルヘンの中では私の方が年上

メルヘン

です さあ答えなさい 永遠の歳下 さあその繭を食い破って

蜘蛛女

私は・・・怖いのかー 女になるのが 人を愛したいと 男を愛したいのに 愛した途

メルヘン

端に裏切られるのが怖いのかー

蜘蛛女

それでいつまでも永遠の少女でいようと

メルヘン

でも見てよ私の肌 手のシワ 顔のシミ 私という地肌のひび割れ 粉々になりな

蜘蛛女

がらサラサラとした砂漠化を始めてる

メルヘン

ちよっと待って じゃあ姉さん その目尻のファンデーションと想っていたのは

蜘蛛女

私は女 女は地球 私の体は砂漠化を始め・・・少しずつ崩れていついてる 私は砂

の女

蜘蛛女

砂の女 安部公房のあの女

メルヘン

いや 私はあの地獄に閉じ込められ逃げ出すことを諦めた男

蜘蛛女

じゃあ逃げてここから この世界から

メルヘン

今更無理 体がサラサラ崩れていきそのうち砂になり消えていく 何も生まずに

蜘蛛女

何も生まずに 女の体を持って生まれて

メルヘン

産まずに埋もれていく

親指

実存主義はお嫌いですか

メルヘン

No. 1

蜘蛛女

あんたがこの店のNo. 1

親指 No. 1 客がそういうなら女将がそう言うなら新入り あなたの実存は何だい
姉さんを取り込んで一体何を聞き出そうというんだい

蜘蛛女 ……聞き出す 取り込んで

親指 その蜘蛛の巣という巧みに仕掛けられた網目状の罠に誰をかけようというのかな

蜘蛛女 私仕事があるので

親指 仕事……女郎蜘蛛の仕事 それは男を食い殺すの それともせつせと罠を張ること

蜘蛛女 ……

親指 姉さんもう年なんだからあまり無理しないで

メルヘン いいえ私は永遠の十六才 忍少尉 私はあなたをここで待ち続けます

女将 そろそろここも潮時か

親指 潮時

女将 潮の引き際 身の引き際 ねえ私の実存は何

親指 そこに生きる実感があればそれで良くないですか

女将 あんたは私に優しいねー 私には実存する意味はないんだ

親指 そんなことは

女将 ない 本当に他人にはかり体売らせて この風俗店で体売らない女に実存がある

親指 女の実存は体売るではありません それに女将さんは女の体売るではなく女の

女将 体を張っているんです 私達の為に

親指 あんたは私に優しいんだね

女将 それはあなたに返します 私たちをここに拾ってくれた

親指 あんた達は捨て猫か

女将 それ以下です 捨て猫なら心優しい人が拾っていつてくれるかもしれない しかし

親指 私達は異形の輩 心優しいだけでは収まりません 私の親指が疼くのです 五センチ

女将 に膨らみ十センチに伸び十五センチの高みを見せた時 私は私を突き破る 女が男

親指 を突き抜きたいと 電気が海馬を突き抜ける こんな私を誰が受け止めてくれます 受け

女将 止めてくれるのはこの客だけ 私は私を止められない

親指 ここは牢獄 そんないいもんじゃない

女将 牢獄だから光る花だってある 私たちは

親指 それをここで口にしてはいけない それは外がこの牢獄を指して言う言葉 自分で

女将 口にしてはいけない

少年 No. 1 お客さんです

親指 女将さんほら触って 客が来ただけで私の親指はイキっている

女将 それは生きている証拠

親指 いえこれは……私はこの世に実存しないという拍動

少年 あの

女将 なんだい

少年 あの女将さん つかぬ事を伺いたいんですが 僕の給料の事なんです

女将 あわわわー

少年 辞めて帰ります・・・止めないんですか
 女将 止めて欲しいのか
 少年 はい 逃げても無駄だとか言ってもらえるとマゾ心くすぐられます それにそうい
 う世代です
 女将 ジャー行かんといてあんたー
 少年 それだとS心くすぐられます
 女将 にしてもどうしたんだい 急にお給料のこと言い出して
 少年 はい あの実は身請けをしたくてですね
 女将 身請け あんた今江戸時代じゃないよ ただの風俗だよ 売られた少女の遊郭じゃな
 いんだから合意の元でいつでも持っていきなーで あんたこの誰をマブだと言
 うの
 少年 世界三大美女と謳われたかのクレオパトラ
 女将 三大美女の一人 ハハハ あの包帯ぐるぐるのミイラ女が
 少年 いけませんか
 女将 二酸化炭素
 少年 言っってない
 女将 そう言っった石灰水を白く濁した
 少年 ブクブクと
 女将 沈む音だよ どうやってあの女と生活を あんな体が片端でまともに働けない女と
 あるのは国からの
 少年 あるのは何です
 女将 何でも
 少年 濁したのはそちらです
 女将 濁したのはお前たちの行き先 ここを出てどこに行く
 少年 きつと幸せになります
 女将 私が聞いたのは行き先だよ
 少年 きつと幸せになります
 女将 そうやって若さの押し売りで押し切って行くけど 君らは何の勝算も無いんだろ
 少年 僕達は幸せになりますきつと
 女将 だからどこでだい
 少年 あの世です
 女将 あのよー ふざけるのも大概にしろ あの世に二人で心中心でか
 少年 心中お察しします
 女将 するよそりゃ
 少年 でも安心してください 彼女が僕に言うんです 私を殺してって
 女将 これはますますあのよーと言いたくなる てめえ女の命を何だと思っってやがる
 包帯女 ねえ私を殺して
 少年 その目をナイフで刺してオイディプスのように光を奪っ
 女将 言っってない
 包帯女 うん

少年 その手首をナイフで切りつけて 丈比べの様に心の成長を刻めるように
言ってる

女将 うん

少年 その顔を何か固いもので殴るの 青くなるまで 赤く腫れるまで まるでその硬い
ものは判子のように あなたは私の認印

女将・女 言ってる

包帯女 うん

少年 その首をこの手で締めてくれって 意識が薄れて あなたが私の見る最後の景色に
したいから

女将・女 言ってる

包帯女 うん

少年 やめてくれ

包帯女 あなたは連れていくと言った私を背負って

少年 よう支えきらんの知ってたくせに 何故あんなこと僕に仕掛けた

包帯女 ねえ貴方の笛私が吹いてあげようか

少年 何故そんな話になる

包帯女 その代わりもうあの女には笛は吹かせないでね ハーメルンの笛吹きには

少年 ……

包帯女 笛吹いてあげる 私があいつに代わって あいつホラ吹きだよ

少年 先生のことは言わんでください

包帯女 先生 あなた先生に何されたの 放課後の課外授業で

少年 それは

包帯女 訳ありなのねそれとも訳がないのに訳ありのように見せるためのそれはテクニッ
ク

少年 僕は見たんです 昔あの遠眼鏡で

包帯女 あなたも私と同じ風景を

少年 僕は両目で

包帯女 双眼鏡にして

少年 はい このカビ臭いトイレトペーパーの芯をこの両の目の前に構えて

包帯女 何が見えた

少年 僕は見た 男が幼女の後を追いかけるのを

包帯女 他には

少年 僕は見た 少女がSNSで自分の体を売る募集記事をその日の日記に上げるのを

包帯女 他には

少年 僕は見た 男が車で待ち伏せてナイフを握っていたのを

包帯女 他には

少年 僕は見た 少女が自ら男の車に乗り込むのを

包帯女 他には

少年 僕は見た 教師が教え子にわいせつな要求をLINEでするのを

包帯女 私は見ただ少年が教師の肉欲を満たすのを あんたいつまでここに居る気なんだい
少年 それは

包帯女 訳ありなのかい それとも訳ありのように見せてるだけなのかいそれは
少年 分かりません 最初は訳ありだった気がします でも高円寺の方から中野の方へ中
野駅から北へ早稲田通りの方へ そこから東へ新宿の方へ 途中大きな隔たりにぶ
ち当たります 山手通りです その先にはネオンの眩しい歓楽街歌舞伎町が見下ろ
せるのです 僕はその眩しさに目を背けます

包帯女 どうやって

少年 体を反転させ まるで来た道を逃げ帰るように そうしてようやく気付いたんです
そこにも駅があったことに

包帯女 その駅の名は

少年 分かりません

包帯女 じゃあ教えてやろうかその駅の名を この町の名を

少年 それ今じゃなきやダメですか それを今聞いてしまおう僕はここにいられない
気がします

包帯女 出ていくのはいつもその君の足

少年 えっ

包帯女 その足その声その指その決意

少年 連れて行かなくていいんですか

包帯女 君の訳ありがもう今や訳ありじゃなくなったなら

少年 僕はこの足で出ていきますこの町を・・・止めてよ・・・僕を あなたのその口から
聞きたくて背中震わせる芝居したんです 止めてよーあなたの家に

包帯女 ホラ吹きーあなたはまたそうやって嘘をつく いつまでもここに居座ろうとする

少年 もう何年ですか

少年 僕は永遠の十六才です時は止まったままです

包帯女 そうやって都合がいいように時間を使っても無駄 浦島太郎のように絶対最後には
箱が開いて割を食う

少年 じゃあ僕が本当は少年ではないというのですか

包帯女 あの時の少年ではないのは知っている あの時はここで見ていた 君が車で連れ
去られるのをこの遠眼鏡で

少年 何であなたはそんなトイレトペーパーの芯なんか目に当てて外を見ていた

包帯女 客が出した体液を 汚れたこの体を拭いていたのさ いつまでもいつまでも

少年 いつまでもいつまでも その体に巻かれている包帯は

少年 舞台上を覆い尽くすトイレトペーパーの意味に気付く

包帯女 いつまでもいつまでも トイレトペーパーが全て巻き取られた芯が出てくるま

少年 で

少年 そんな悲しい目で外を見ていたんですね

包帯女 早くこの町から出ていきなさい 時間は巻き取られていく トイレトペーパーの

少年 芯が出たら終わりだよ
死んでたら終わり
包帯 さあ早くお帰りなさい

ハーメルン 余計なことはせんといてください 彼は自分の意思でここにいるんですからあー
臭いあんたのその男の体液まみれの包帯に染みついているんだね 拭いても拭いても染み込んで臭いを増すだけ

少年 先生 彼女をそれ以上責めんであげてください

ハーメルン 彼女いつからお前彼女彼氏と言いつつ仲になった

少年 彼女が僕をそう呼んでくれるなら今でも

ハーメルン じゃあそう呼んでやれよ彼女彼の事を愛しの彼氏と

包帯女 ・・・呼べません 呼べば私は殺される 次は私の体の何処を持っていいこうというの

少年 何を言ってるんですか 僕が君から奪うわけがない

包帯女 近づかないで

少年 僕はあなたを支えます

包帯女 そうやって男は女が体重をかけた瞬間蹴飛ばされた松葉杖のように消え 女は道に

転び服を汚す 土色に赤色に何色に初めて会った日を覚えてますか 私達が

少年 はい 僕がこの町のこの館に足を踏み入れたあの日

包帯女 違う 私たちが出会ったのは創世記 アダブとイブの会ったあの楽園 そこで男

と女は出会ったの

ハーメルン 追いかけてはダメです

少年 でも先生

ハーメルン では私を置いていくと言うの 女を選択して

少年 そうではありません 教えてください先生 あなたを先生とまだ呼ばせるなら

ハーメルン 先生と呼ばれても私は音楽の教師 出来て保健体育 人の歩く道筋までは指し記せ

ません

少年 役立たず

ハーメルン 人を役立たずとなじれば後悔先に立たず この言い争いの先にあるのが別れなら私

はここで引くよ 役立たずと役を下ろされても

少年 ・・・

ハーメルン どこに駆け込むと言うの

少年 さつき ・・・ あの人 が トイレ トペーパー を 切らした というので カラカラと いく
ら 回しても 芯が 空しく 回る だけだ というもので さつき トイレ トペーパー の 新し
いのを ・・・ シングル ではなく ダブル 巻きを 簡単に 破れない 丈夫 な やつ を 買って
きたので それを 替え に行こうかと

ハーメルン ・・・ それなら 早く

少年 はい

ハーメルン ・・・ それなら 早く 帰って きて

少年 うわうわー 蜘蛛だ 先生ー 先生ー 先生

蜘蛛女 人を蜘蛛だなんて トイレで網を張ってただけなのに

少年 トイレで網

蜘蛛女 田舎のぼつとん便所 裸電球見上げるとギョツとする女郎蜘蛛 君を待ってたの

少年 トイレで

蜘蛛女 トイレで待ってれば人間一日最低一回は寄るでしょう

少年 特に僕など緩いので七・八回と

蜘蛛女 君名前は

少年 ・・・少年です

蜘蛛女 少年って

少年 だって台本に書いてあるんだもん少年って

蜘蛛女 それ言っちゃダメでしょ

少年 じゃあなんて言えば

蜘蛛女 ・・・その台本とやらに書かれている少年という名の隠れ蓑で 君は何を隠しているのかな

少年 何が言いたいのですか

蜘蛛女 君の名前は・・・

少年 だから

蜘蛛女 少年 そう呼ばれてたとしても名前が無いわけではないだろう 包帯女もハーメルンも 女将もメルヘンも親指姫も 男女もニューハーフも ロバ 犬 猫 鶏 蜘蛛女もそう呼ばれているだけで名前が無いわけじゃない 私はミチコ 佐藤ミチコ・・・あなたは

少年 僕は永遠の少年だ

蜘蛛女 どこかで見たな君の顔 二年前くらいにテレビで

少年 やめてください いくら美男子だからって芸能人に当てるのは

蜘蛛女 テレビに出ているのが芸能人とは限らない ニュースに出てくる犯罪者だってそう

少年 僕を犯罪者に仕立てる気ですか

蜘蛛女 似合う衣があれば仕立てましょうか

少年 その衣とはとんだ・・濡れ衣だ

蜘蛛女 びしょびしょに濡れた衣から 滴り落ちた落ちた雫はさながら迷いの森のヘンゼルとグレーテルが落とした帰り道を記したパンの屑 私はねー そのポツチャンポツチャン落ちた水雫を辿ってここに来た

少年 ・・・

蜘蛛女 お坊ちゃん

少年 僕をここにきて子供扱いする気ですか やめてくださいその呼び名は

蜘蛛女 そういうつもりで呼んでない 敬意を払ってそう呼んでいるのですお坊ちゃん ここは何ですかねー 私思いますけどこの従業員は一筋縄ではいかないなーと思いましたが なんなら網で一気にこの蜘蛛女の巣食ってた網曼茶羅 網で一網打尽にしてしまった方が一思いにいいのではと

少年
蜘蛛女

好きにすればいいと思います。
本当は

男女

・・・好きだ

蜘蛛女

どうしたんですか急に今忙しいんです

男女

どうしようもない君という存在はレニ・ラメゾンそれに急に来るのが愛の嵐

蜘蛛女

嬉しい 私をそんな大女優に見立ててくれてでもおかしいわあなたは女よ私も

女

愛に性別は必要かい

男女

必要でしょう

蜘蛛女

じゃあ愛に国境は

男女

それはない

蜘蛛女

じゃあ年の差は

男女

もつてのほか

蜘蛛女

じゃあ家柄や身分は

男女

ナンセンス

蜘蛛女

じゃあ性別は

男女

それだけはダメ

蜘蛛女

おいおい君は古いな

男女

古い正常と言ってほしいわ

蜘蛛女

ユニセックスさ 中性さ

男女

口説き文句はファッションそれとも流行言葉

蜘蛛女

俺の心は男なんだ

男女

でも体は女

蜘蛛女

それがなんだ最近では珍しくない

男女

男が女に女が男に それって中性

蜘蛛女

より美しい より人が輝く

男女

じゃあその中性に辿り着いてそのうち突き抜けて 人間は性別がひっくり返るの

蜘蛛女

魚でもいたわよね

男女

そんな答えはどうでもいい俺が欲しいのは君だ

蜘蛛女

インギンチャクの中の二匹のオスが

男女

クマノミさ

蜘蛛女

そうクマノミ

男女

何しに来た

蜘蛛女

君を止めにくクマノミはインギンチャクの中で活かすのさ一生

男女

オスとオスではごめん

蜘蛛女

クマノミはオスとオスとが生き残ったらどちらかの身体がメスに変化するそして

男女

また子供を産むことができる 僕達はまさにそれさ

ニューハーフ

お前の性癖を押し付けなくてくれ気持ち悪い

男女

お前の性癖を押し付けなくてくれ気持ち悪い

ニューハーフ
僕はようやく分かったんだ この体にした理由が僕は女性になりたかったからこの体にしたんじゃない 男に愛されたいからこの体になったんだ この女の体なら男は愛してくれる ヴァレンティン分かってくれるかい

男 女
この変態 この変態野郎 誰がこの牢獄でお前みたいな変態と恋に落ちるか

ニューハーフ
じゃああんたはまともかい

男 女
俺はまともだ お前とは違う 俺は病気なんだ 心は男でたまたま身体が神の悪戯で女に生まれてきちゃっただけなんだ お前とは違う

ニューハーフ
じゃあそれを誰が受け止めてくれる

男 女
蜘蛛女さ・・・ねえレニ・ラメゾン

ニューハーフ
どこにいるそんな奴 どこにいるそんな女優 どこにいるそんな女レニ・ラメゾンは・・・僕の頭の中の架空の女性像なんだ

男 女
いたさつきまでそこに

ニューハーフ
いたのは牢獄に巣張るただの女郎蜘蛛

少年
なんなんだ 今思えばここは何なんだ こんなところで今まで何をしてたんだ

蜘蛛女
何をしてたんだらうねー お坊ちゃん帰りましょう 親御さんも心配してます

少年
心配 お父さんとお母さんが 嘘だ

蜘蛛女
嘘じゃない だから私が探しに来た 女郎のフリをして 私はあなたのご両親から

少年
ここから連れ出すよう頼まれた者です

少年
頼まれた

蜘蛛女
そう この場所が場所なもので 事を荒げることができないんです・・・あなたは何

故ここに 誘拐それともただの家出 それとも自作自演の狂言誘拐だった だって鍵

もついてない この館のドアは一階の窓を開ければどこからでも抜け出せる 部屋

に閉じ込められている訳でもない あなたは近くのコンビニでよく買い物だっ

ていた ねえ一つだけ教えてください あなたは誘拐されたんですか それとも・・・

そしてなぜ二年間一度も逃げ出そうとしなかったんですか

少年
それは

蜘蛛女
それにはどんな訳があるというのです

少年
それは・・・楽だったから

蜘蛛女
楽だったから とんだ訳なしだ あなたは訳もなくこんなところで二年間ただただ

のほんんとしていただけというのですか さあ行きましょう

少年
手を離して

蜘蛛女
さあ行きましょう

少年
ここは一体何なんですか

蜘蛛女
それを教えたら帰ると約束してくれます

少年
多分

蜘蛛女
多分じゃ力ずくだ

少年
分かりました

蜘蛛女
あんたまさか・・・まあいいそれが答えと受け取りましょう ここはただの風俗店

じゃない ここは国も容認する働き口のない障害者に客を取らせて商売している風

俗店 山手通りを越えて歌舞伎町で働けないワケありの女たちの秘密のドブ底容
姿不具 生殖器異常 解離性障害 自傷中毒者 性同一性障害 その他諸々

女達の姿が明らかになっていく

女達

ブレーメン

蜘蛛女

少年

蜘蛛女

少年

蜘蛛女

少年

蜘蛛女

少年

蜘蛛女

包帯女

少年

包帯女

・・・

ヒヒーンワンワンニヤーンニヤーンコケコッコ

かつて都市伝説として闇に葬られた本当の闇 障害者による風俗店 そこになぜあ
なたは二年もの間家にも帰らずただただここにいたのですか

それは・・・あの人が優しくしてくれたからです

どうします その手を引きましょうか 自分で決着つけれます

自分で決着つけてきます 僕にまだ意志があるうちに

もし自分でどうにもならんようならこの糸引いてください 引っ張り上げます 地

獄からカンダタを

僕が糸を奪いに来る亡者を蹴り落としたり

それでもあなたを引き上げます 釈迦のところまで

その言葉信じます ですから少しの間外で待っててください

引くのは糸女の首にかかった紐ではないのですよ

・・・

さあ帰りましょう あの時僕は思い出したのです なぜ僕は手に光るナイフを持っ
ていたのか

私を殺す為 ゴツゴツとした岩場の岩牡蠣を剥がすように

なんとも

この白くぷっくりとした脇腹からナイフを押し当て その涙色した心中を取り出そ
うというの

ナイフを押し当てているのです 血が滲んだかもしれませんよ

赤に

赤に

赤に

赤に

赤に そっと添えられた鉄の冷たいのがゆっくり差し込まれていくのが分かる

ナイフですからね 鋭利ですからね 牡蠣の身に刃を立て真珠を取り出すことぐら

いなんともありません 赤に

真っ赤に

染まれ

真っ赤な

嘘に

・・・

少年 包帯女の包帯をナイフで割くと美しい足が出てくる
まるで人魚のヒレが足へと生え変わるように

少年 あなたは声の変わりに足を得た人形姫 最初からその足はついていた その目は眼
光鋭く遠くの獲物を狙っていた 僕の手のナイフの理由は君たちを解放する為 そ
の手もこの手の指もきつと嘘だ

包帯女 やめて この貝の殻にナイフを押し当て 答えを言い当てるのは

少年 まさか まさかその手だけは

包帯女 あなたを引けぬ片端の手 楽しいですか人を丸裸にして いやまだ裸にされること
の方が楽だ あなたがそのナイフで助けようとした女は手引きを必要としない女
すみません すみません・・・僕が間違っていました 嘘だなんて あなたを真つ赤
な嘘だなんて言っすすみませんでした

包帯女 私には行けぬ 訳ありなの だからここから連れ出すことはやっぱり

少年 無理なんでしょうか

包帯女 無理だとは思いませんか 連れ出した女に身体的な異常があるんです

少年 今や世の中は身体的な異常者の方が分かりやすく健全でいい 内に孕んだ異常者
の方が問題です

包帯女 内に溜まった膿を

少年 掻き出します

じゃあその膿を その腹から出さなきゃいけないのは君だ 吉田くん

ハーメルン 吉田ー 今日はずいとも違った笛を使って練習だ

少年 はい先生 先生この笛は

ハーメルン 吉田 考えるな 教えた通りにやってみろ

少年 はい先生 こうですか

ハーメルン そうだいいぞ

少年 先生 でもこの笛からは音が出ません

ハーメルン なんでここにたどり着いてしまったんだ

少年 田中先生・・・なんでそんな姿に

ハーメルン 教師という聖職者 地獄に落ちた成れの果てだ

少年 つまり笛吹きは・・・

ハーメルン お前だよ 私じゃなくて

少年 あーあーあー

ハーメルン その笛は誰の笛だい

少年 うわーこの役立たず

ハーメルン 誰が役立たずだって これは笛無くたって人は役立たずにはならないよ

少年 殴ったね・・・殴ったね・・・

ハーメルン この言い争いの先に何が待っているというの

少年 離してくれ

ハーメルン ごめんなさい ごめんなさい

少年

・・・

ハーメルン

何処に駆け込むというの

少年

さつき・・・あの人がトイレットペーパーを切らしたというのでカラカラといくら回しても芯が空しく回るだけだというので さつきトイレットペーパーの新しいのを・・・シングルのではなくダブル巻きを 簡単に破れない丈夫なのを買ったのでそれを替えに行こうかと

ハーメルン

それなら早く

少年

はい

ハーメルン

・・・それなら早く帰っておいで

少年

・・・

ハーメルン

それなら早くなぜ帰ってこない

少年

僕は初めてこちらの方から七月七日の七夕に架かる橋を渡るように天の川を越えたトラックの行き交う山手通りを渡り新宿の方へ 眩しい歓楽街の手前にある駅に東中野の駅にアトレの二階の公衆電話から あの人から貰っていた毎月のお小遣いの中から百円玉を取り出し あの人ー もしもし・・・お母さん 僕 そう僕今一人 誰もいない この二年間何してたって 何もしてないよ・・・何もなくて良かったから二年も帰らなかったんじゃないか 遊んでたわけじゃないよ ちゃんと働いていたよ・・・この体を売った代わりに長い間厄介になったよ 探さなくてください あれはかかされたの無理やり だって僕誘拐されていたんだもの 僕は受話器につながった蜘蛛女の糸を思いつきり引つ張る 誰か助けてくださいー

蜘蛛女

ここだ・・・この訳ありの風俗店は訳なしの未成年を監禁し続けて働かせ続けたその名も 牢獄

ブレーメン

ヒヒーンヒヒーンワンワンニャーニャーコケコッコー

風俗店の女達が捕まって出てくる

親指

私達の実存はどこにありますか ロバと犬と猫と鶏と体の不自由な女子も宿さず永遠の少女を貫いた老婆と 男しか愛せない体は女の男と 女しか愛せない心は男の女と 体が売れない女が他人の体を売るそして心も体も女なのに女性器が男性器のような変化を見せる私 私達の実存はどこにありますか これは女ですかこれは男ですか これは人間ですか 詩人ポール・ヴァレリーは言った 嵐は終わったにもかかわらず我々はあたかも嵐が起ころうとしている矢先のように不安である これは彼が第一次世界大戦後に書いた詩である ポール・ヴァレリーはこの後 あたかも第二次世界大戦が起こるのを予知したように このように詠った これは世界大戦の前触れである 鉄と人の戦争ではない 性と人の戦争である 男は女性化し草食系と呼ばれ女性を求めることをやめ 女性は髪を短くし 美しい物を求め同性や二次元流れて人の愛を忘れていく 世界にギャラルホルンが鳴り響く 世界の終わりを告げる 最終戦争を告げる角笛が世界に鳴り響く 人間の最終戦争は既に始まっている 角笛は既に鳴り響いている 人は増えすぎて自ら鍵を開ける これ以上

増えないために劣等遺伝子のレミングが笛の音に誘われて川に飛び込み自殺する

蜘蛛女
これで全員です

少年
全員じゃありません ほらあなたも見たはずですよ ハーメルンの笛吹きを

蜘蛛女
ハーメルンの笛吹き

少年
田中先生です

蜘蛛女
田中先生 そんな先生と呼ばれる人があんな風俗店で働きますかね

少年
だって先生が僕をあそこに引き込んだんです

蜘蛛女
従業員名簿を見てもそんな名前は無いし 人数だってあれでびったしですし

少年
僕を信じないんですか ホラだということですか

蜘蛛女
ホラだなんて ほら・・・声を荒らげるものだから皆が見てる・・・そもそも・・・

あなたにも疑いがかけられているんですよ

少年
疑い

蜘蛛女
だってあなたは二年前誘拐されたことになっている でも聞けばあの館にあなたは
監禁されるどころか鍵すらかかってなく 自由に行き来さえしていたと聞きます
果たしてそれぞれって誘拐ですか

少年
僕は誘拐されたんです

蜘蛛女
誰に

少年
ハーメルンの笛吹きに

蜘蛛女
中世ドイツの都市ハーメルンでネズミが大量発生する そこに笛吹きの旅人が現れ
て笛を吹くとネズミは狂ったように後から後から川に飛び込んだってやつですね
なんですかその目は 人をホラ吹きとでも言い出しそうな目は

少年
先程ご両親から訴えが取り下げられました 何故でしょう

蜘蛛女
・・・

少年
これから大変ですな

蜘蛛女
何が

少年
中学二年生からの二年間の勉強がこれから待っている

蜘蛛女
・・・

少年
そうやって都合よく時間を止めたって無駄 浦島太郎のように最後には箱が開いて
必ず割を食う さよなら・・・永遠の少年 ハーメルンのホラ吹き

少年
違う 僕は見た 男が幼女の後を追いかけるのを僕は見た 少女がSNSで自分の
体を売る募集記事をその日の日記で上げるのを僕は見た 男が駅で待ち伏せてナ
イフを握っていたのを僕は見た 少女が自ら男の車に乗り込むのを僕は見た 教
師が教え子に猥褻な要求をLINEでするのを先生ー先生ー この芯の先にあな
たは姿を現してくれないのですか

ハーメルン
永遠の君 そんな所で何している

少年
先生 やっぱ僕はホラ吹きじゃなかった

ハーメルン
いつまでその鳴りもしない笛を 見えない遠眼鏡を 女の性香る便所の臭い
染み付いた芯に心奪われている

少年
ハーメルン
先生 もう一度僕を連れて行ってよそのハーメルンの笛で
容易いさ・・・しかし少年よいいのかい 今度吹くこれはギャラルホルン 世界の

少年
ハーメルン
終わりを告げることになるんだよ

少年
ハーメルン
それでも先生とならどこへでも

少年
ハーメルン
さあ悲しみの少年ここにおいて ハーメルンの鼠を退治した旅人は報酬を求めまし
たが 街の人のほそれに応じません 怒った旅人が笛を吹くと町中の少年という少
年が家から飛び出してこの世は女しかいなくなりました

少年
ハーメルン
・・・先生

少年
ハーメルン
君は最後の少年 人類の希望 いいんだね

少年
ハーメルン
明日はさよならだけさ 行こう先生

少年
ハーメルン
行こう少年

少年はハーメルンに連れて行かれる

街は静かになり世の中から少年は消えた

男女とニューハーフの結婚式

ロバ
ヒヒーン

犬
ワンワン

猫
ニャーニャー

鶏
コケコッコ

男女
・・・

ニューハーフ
・・・

ロバ
もう私達は彼達に委ねるしかないのか

犬
また生まれる異形が

猫
私達の様な

鶏
ただ泣くだけの生き物

少年はこの世から消え 男女とニューハーフは結婚し

一体この世はどんな子供が産まれてくるのだろうか

了